

「低栄養」打開の鍵は、 多角的な栄養アセスメント 低栄養と病態を結びつけ、ケアに活かす！

高齢者にとって低栄養状態は健康問題に直結します。

高齢者に低栄養が起こる背景には、「食事の提供量が少ない」「食事の準備ができない」などの理由でエネルギー摂取が不足している状況とともに、疾患による炎症反応でエネルギー消費量が増加しているといった状況が絡み合います。

そのため、「摂取しているエネルギー／たんぱく質が減ったからその量を増やす」という素朴な方法論だけでは有効な一手となり得ません。その人の病態・病状に注目し、栄養不足に陥るまでのロジックを解明した上で手立てを講じる必要があります。

本特集で注目するのがその部分です。

「低栄養と病態とを関連づけてアセスメントすることで看護課題を浮上させ、ケアを組み立てる」。

これを訪問看護師が担うべき役割として取り出し、事例とともに提示します。

低栄養を疑われる人を前にしたとき、どのように問題を捉え、打開策を講じるか。そのヒントと可能性を示す特集です。

